

授業科目(ナンバリング)	倫理学 (AB203)			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この講義では、行為の善悪や価値をめぐる具体的事例を考察しながら、西欧近代の主要な倫理思想はもとより、さまざまな宗教・文化の倫理観についても考察する。倫理思想に関する理解を深めると共に、現代社会の倫理的課題について主体的に考察する能力を高めることによって、人間存在を尊重する精神を培い、人間形成の基盤づくりに結びつけていくことが、この講義の到達目標である。							① ③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	倫理学およびそれに関連する学問領域の専門的な学術用語を説明することができる。				・定期試験 ・課題レポート	30% 10%	
情報収集、分析力	現代社会のさまざまな局面における具体的事例について情報を収集し、そこから倫理的問題性を指摘することができる。				・定期試験 ・課題レポート	20% 10%	
コミュニケーション力	倫理学において示されてきた独自の概念と視点とについて、主体的な意見を提示することができる。				・受講態度・授業への参加度	10%	
協働・課題解決力	自らの専攻する学問分野の問題に関連づけて、倫理をめぐる具体的な問題の解決に寄与することができる。				・定期試験	10%	
多様性理解力	人間の行為規範である倫理と宗教・文化との関係について理解し、社会によって倫理的価値観に違いがあることを考えることができる。				・課題レポート	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は定期試験 60%、課題レポート 30%、授業態度・授業参加 10%の配分で行う。定期試験は筆記試験により行い、倫理学の専門用語の的確な説明と倫理的議論の理解度を評価基準とする。課題レポートは課題への取組み方と内容、授業態度・授業参加はレポート提出状況によって評価する。なお、フィードバックは授業のなかで適宜行う。							
授 業 の 概 要							
この授業では、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、重要な語句や関連する映像資料等をパワーポイントによって提示しながら解説する。また授業の最初には、課題レポートの解答を示し、内容に関する説明を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。 参考書：木村勝彦・森戸勇『西欧倫理の思想史像』勁草書房 指定図書：木村勝彦・森戸勇『西欧倫理の思想史像』勁草書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
いかなる専攻分野であれ、それぞれの研究を深めて有意義なものとするためには、現代社会の抱えるさまざまな問題を倫理的にどう判断すべきかについての反省が不可欠である。主要な倫理思想を学ぶと共に、さまざまな宗教や文化による価値観の相違について理解を深め、「よく生きる」とはどのようなことかを主体的に考えていく契機として欲しい。また書籍や新聞・ニュースなどを通して、国内外の倫理的問題についての情報を得るように努めることを期待する。意欲的かつ真摯な学習態度を要求する。授業中の私語や理由のない遅刻・途中退席は禁止する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	倫理学とは「よく生きる」とはいかなることかを問う学問であり、善悪の基準を明確にしようとするものであることについて概説する。	倫理学の学術用語の整理・復習 文化に関する予習
2	倫理と文化	「よく生きる」を問う上で、何を「よい」と判断するかについては、文化による価値観の相違が大きな意味を有していることを考察する。	文化による価値観の相違についての整理・復習 カントに関する予習
3	人間らしく生きること	「人格への尊敬」を根幹とするカントの倫理思想を手がかりとして、「人間らしく生きるとはいかなることか」という問題について考察する。	カントの「人格」概念についての整理・復習 「良心」に関する予習
4	良心とはいかなるものか	カントは人間には良心があり、良心にもとらない行為をすべきだと述べるが、そもそも良心とはいかなるものかについて考察する。	「良心」についての整理・復習 「道徳法則」に関する予習
5	嘘をつくことは許されるか	道徳法則というカントの考え方にもとづいて、「嘘をつくことはなぜよくないのか」「あらゆる場合に嘘が禁じられるのか」という問題について考察する。	「道徳法則」についての整理・復習 「幸福論」に関する予習
6	幸福とは何か	人間にとって幸福とは何なのかを、さまざまな倫理・宗教思想を手がかりとして検討し、ある人の幸福は他の人にとっても幸福なのかについて考察する。	さまざまな「幸福論」についての整理・復習 ベンサムに関する予習
7	幸福計算は可能か	ベンサムの「快樂計算」「幸福計算」という功利主義的な考え方を手がかりとして、幸福とは計算され得るものなのかについて考察する。	ベンサムの「幸福計算」に関する整理・復習 J.S.ミルに関する予習
8	幸福の質	J.S.ミルの功利主義的な倫理思想を手がかりに、「精神的な幸福」と「身体的な幸福」との相違を、「幸福の質」の問題として考察する。	J.S.ミルの功利主義に関する整理・復習 「自由」概念に関する予習
9	自由とは自分勝手であることか	カントとミルの自由概念を対比させながら、自由とは「自分勝手にふるまうこと」を意味するものではなく、責任を伴うものであることについて考察する。	カントとミルの「自由」概念についての整理・復習 「他者危害」に関する予習
10	他者に危害を及ぼさないこと	ミルが自己の心身に関する自由を最大限に認めながら、「他者危害排除の原則」という条件を付したことの意味について考察する。	「他者危害排除の原則」についての整理・復習 大人の責任に関する予習
11	子どもは親のものか	「自由」と「自分勝手」との相違に関連して、「輸血拒否事件」や「悪魔くん命名事件」などを取り上げ、子どもに対する親・大人の責任について考察する。	子どもに対する大人の責任についての整理・復習 「生命」概念に関する予習
12	生命という価値	最も根源的な価値は「生命」だという思想を手がかりに、「生命とはいかなるものか」「自他の生命をいかに考えるか」という問題について考察する。	「生命」概念についての整理・復習 「死」の理解に関する予習
13	人を殺すことと自殺すること	ほとんどの倫理思想や宗教思想において、「人を殺すこと」や「自殺」は禁じられているが、それを禁じる根拠は何なのかという問題について考察する。	さまざまな「死」の理解についての整理・復習 「生命倫理」に関する予習
14	メメント・モリ（死をおぼえよ）	「死の判定」の問題、あるいは安楽死・尊厳死は許されるのかという問題を取り上げ、「いかに死んでいくのか」をめぐる倫理的問題性について考察する。	「生命倫理」についての整理・復習 「生命観」に関する予習
15	「生きること」と「よく生きること」	講義全体を振り返り、再度「よく生きる」とはいかなることかを問い直し、「生きること」と「よく生きること」を区別したカントの思想について考察する。	カントの倫理思想における「生命観」についての整理・復習と授業全体の整理
16	定期試験		